

## 対照的な兄弟の再会

創世記三三章

こうしてヤコブは、パダン・アラムから戻り、無事、カナンのあるシケムの町に着き、町の前で宿営した。……そこに祭壇を築き、それをエル・エロヘ・イスラエルと呼んだ。(18〜20)

兄エサウを非常に恐れていたヤコブだったが、かつての怒りはすっかり消え、ヤコブ家族を喜んで迎えてくれました。二十年ぶりに再会する双子の兄と弟ですが、その性格などは好対照の二人でした。人間的に見れば、ヤコブなどよりもエサウのほうがずっと魅力的でした。しかし、魅力的な人間が救いに近いかと言えば、必ずしもそうではありません。エサウには、霊の世界の深まりはありませんでした。かえって人間としては魅力に乏しいヤコブが、豊かな靈性を備えていたのです。「押しのける者」という名を付けられたヤコブの性格の醜さが、神なしには生きていくことの出来ない自分であることを悟らせたのです。人間としての魅力を備えながら、信仰には無関心で救いからは遠い人々がいるのを目の当たりをするとき、私たちが救われていることの恵みにただひれ伏すばかりです。